

平成 23 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

| | |
|------|---|
| 講 座 | 経済理論・統計、比較経済、政策科学、 経営学、会計学、組織経済学、 地域公共政策コース |
| 専門科目 | マクロ経済学 |

以下の問 1 と問 2 の両方に解答せよ。なお問 1 は解答用紙第 1 ページと第 2 ページに解答し、問 2 は解答用紙の第 3 ページと第 4 ページに解答すること。

問 1 ある国の経済を考える。財市場に関して、

$$\begin{aligned} \text{消費関数} & C = 0.5Y \\ \text{投資関数} & I = 30 - 2r \\ \text{政府支出} & G = 10 \\ \text{純輸出} & NX = -30 \end{aligned}$$

が与えられている。また、貨幣市場に関しては、

$$\text{実質貨幣需要関数 } L = 20 + Y - 4r$$

が与えられている。ただし、 Y は GDP、 r は利子率、 C は消費、 I は投資、 L は貨幣需要量をそれぞれ表し、かつ、これらは実質値である。このとき以下の設問に答えよ。ただし、計算が必要な問題は計算過程を明確に示せ。

- (1) IS 曲線の式を求めよ。
- (2) LM 曲線の式を求めよ。ただし、名目貨幣供給量を M 、物価水準を P とせよ。ここで、 M と P は正の定数である。
- (3) 総需要曲線の式を求めよ。
- (4) 労働市場に関する条件から、総供給曲線が $Y = 50P$ で与えられているとせよ。このとき、財市場、貨幣市場、労働市場を同時に均衡させる GDP の水準と、物価水準を M の関数として求めよ。ただし、ここでの労働市場の均衡は必ずしも完全雇用を意味しない。
- (5) いま、完全雇用での GDP の水準 \bar{Y} が、 $\bar{Y} = 50$ で与えられている。このとき完全雇用水準を達成するために、名目貨幣供給量をいくらにすればよいか？ またそのとき、物価水準 P はいくらになるか？

問2 ある経済のインフレ供給曲線とインフレ需要曲線が以下のように示されている。

$$\text{インフレ供給曲線： } \pi_t = \pi_t^e + \alpha(Y_t - Y_F)$$

$$\text{インフレ需要曲線： } Y_t = Y_{t-1} + \beta(m_t - \pi_t)$$

$$\text{期待インフレ率： } \pi_t^e = \pi_{t-1}$$

ここで π はインフレ率、 π^e は期待インフレ率、 Y はGDP、 Y_F は完全雇用GDP、 m はマネーサプライ増加率である。また各変数の下付き t はその変数が t 期のもの（下付き $t-1$ はその変数が $t-1$ 期のもの）であることを示し、 α と β は正の値とする。 t 期までの経済が定常状態であるとし、以下の問に答えなさい。

- (1) t 期のマネーサプライ増加率が6だとする。 t 期のインフレ率とGDPを求めなさい。
- (2) $t+1$ 期にマネーサプライ増加率が8になった。 $t+1$ 期のインフレ率とGDPを求めなさい。

以上